

とちぎ創生^{いちご}15戦略における目標値の見直しについて平成 30 (2018) 年 10 月 25 日
栃木県総合政策部

今年度についても、とちぎ創生15戦略の更なる高みを目指すべく、重要業績評価指標(KPI)の進捗等を考慮し、目標値の見直しを行う。

<参考>平成30年度第1回評価会議資料における見直しの考え方

見直しの対象とする指標の選定や具体的な目標値の検討に当たっては、直近の実績値のみからではなく、これまでの傾向や目標値設定の基礎となる法令の変更等も考慮する。

1 見直し対象とする指標

(1) 見直しの要件

次の3つの要件いずれかに当てはまる指標について、目標値を見直すこととする。

- ① 直近2年間、実績値が目標値をクリアしたもの
- ② 直近実績値が目標値をクリアし、かつ、これまでの傾向等から更なる向上が想定されるもの
- ③ 根拠となる法令や国の個別施策計画など、設定根拠に変更が生じたもの

(2) 対象とする指標

戦略	指標名	基準値	目標値		見直し後の 目標値の 考え方等	該当 要件 (上記丸 数字)	
			見直し前	見直し後			
戦略1	製造品出荷額等	8兆 1,795億円	H30	8兆 5,900億円	9兆 3,082億円	国の経済成長率に県の事業効果を加味	①
戦略12	地域公共交通網形成計画策定市町数	一市町	H31	10市町	17市町	実績値を踏まえ見直し	②
戦略15	訪問看護事業所の訪問看護師数(人口10万人当たり)	17.4人	H31	23.4人	28.1人	実績値に増加見込みを加味	②

(3) 適用時期

平成31年度

見直し対象とする指標一覧

製造品出荷額等

(億円)

年度		基準値	H26	H27	H28	H29	H30
目安・目標値等	(見直し前)	81,795	82,616	83,437	84,258	85,079	85,900
	(見直し後)					91,257	93,082
実績値			82,938	88,097	89,468		
分析 ※とちぎ創生15戦略：KPI分析シートより		<p>・H28の製造品出荷額等は、前年に比べ、1.6%増加したが、その伸びは前年より鈍化している。(全国12位) その要因は、主に「生産用機械」や「情報通信機械」等が増加した一方で、「飲料・たばこ」や「業務用機械」等が減少したことによるものである。</p> <p>・本県の食品製造業の製造品出荷額等は、H27に比べ1.4%増加したものの、関東1都6県の中で最下位となっている。(H28：652,493百万円、全国16位)</p> <p>・本県における重点5分野関連業種を抽出した出荷額等は、H27に比べ3.1%増加したものの、その伸びは前年より鈍化している。</p>					
目標設定の考え方等	(見直し前)	5%/5年間の増					
	(見直し後)	国の経済成長率に県の事業効果を加味し、年間2%の増					

地域公共交通網形成計画策定市町数

(市町)

年度		基準値	H27	H28	H29	H30	H31
目安・目標値等	(見直し前)	—	4	7	8	9	10
	(見直し後)					15	17
実績値			4	9	13		
分析 ※とちぎ創生15戦略：KPI分析シートより		<p>・計画策定に取り組む市町への積極的な支援や助言により、実績値(13市町)が目標値(10市町)を上回っている。</p> <p>・あわせて公共交通事業者に対する運行支援などの取組により、鉄道・バス等の利用者数が増加した。</p>					
目標設定の考え方等	(見直し前)	H31までに全市町の4割達成					
	(見直し後)	H31までに全市町の7割達成					

訪問看護事業所の訪問看護師数(人口10万人当たり)

(人)

年度		基準値	H27	H28	H29	H30	H31
目安・目標値等	(見直し前)	17.4	17.9	19.2	20.6	22.0	23.4
	(見直し後)					26.2	28.1
実績値			21.1	22.4	24.3		
分析 ※とちぎ創生15戦略：KPI分析シートより		<p>・訪問看護事業所の訪問看護師数は増加傾向にあり、目安値を上回り、概ね順調に推移している。訪問看護ステーションの事業所数は、全国最下位(H29年度、人口10万対)の状況であり、横ばいである。</p>					
目標設定の考え方	(見直し前)	訪問看護サービスの需要量(訪問診療を受けている患者のレセプト数)の伸び率を踏まえ、推計					
	(見直し後)	実績値の伸び率に、訪問看護事業所の訪問看護師数の増加見込みを加味し、従前の目標値から約2割増					